

「東四つ木地域における新しい学校づくりに向けた取組」説明会  
質疑応答

・12/14（木）木根川小学校 体育館

【質問1】

中川中学校は校名も含めて残るのか。

【回答1】

木根川小学校と渋江小学校は、統合して新しい小学校になりますので現在、新しい校名を募集しているところです。中学校は、中川中学校として引き続き存続し、新しい校舎が木根川小学校の敷地に完成した際に、移転することになります。

【質問2】

説明資料に記載のある「中1ギャップ」とは何か。

【回答2】

小学校を卒業して中学校に進学する際に、中学校の学習環境に馴染めず、学校に行きづらくなってしまおうといった状況のことです。施設一体型校舎を整備することで、小学生と中学生がお互いの様子が見える環境で学校生活を送れるようになり、中1ギャップの解消を図ることができると考えています。

【質問3】

小学校と中学校合わせて500人近い子どもたちが新校舎に通学することになるが、通学面についても検討しているのか。

【回答3】

現在の木根川小学校の出入口は、細い道路を通った先の1か所だけであるため、このままだと通学時に混雑が予想されます。そこで、新校舎では小学校と中学校の出入口を分けることなどにより、それぞれ動線を確保することを検討しています。

【質問4】

新校舎の整備に当たり、木根川小学校に隣接する木根川集い交流館や民間の土地を活用していく考えはあるか。

【回答4】

同様のご要望を東四つ木地域学校づくり検討懇談会からもいただいております。今後、子どもたちが広い校庭を使えるよう、利用者の皆様や土地の所有者といった方々と話し合いながら検討を進めてまいります。

【質問5】

学校統合により木根川小学校と渋江小学校の児童が一緒になるが、子どもたちへの配慮について伺いたい。

【回答5】

学校統合までの間に、両校の児童が定期的に交流会をしたり、一緒に行事や授業ができるように学校間で話し合い、計画的に準備を進めていきたいと考えています。また、教員配置についても、統合小学校に木根川小学校の先生も一定数、異動できるように配慮してまいります。

【質問6】

施設一体型校舎の整備により、どれくらい小学校と中学校の交流ができるようになるのか。

【回答】

まず、小学校と中学校それぞれの学校運営をしっかりと行った上で、小・中学校の連携を強化し、様々な機会を捉えて交流していくことが、中1ギャップの解消にもつながると考えています。

今後、施設一体型校舎において、小・中学校9年間の学習のつながりを意識して、子どもたちの学びの環境をつくってまいります。また、日々の学校活動の中で小・中学校で縦割り班をつくり、読み聞かせやゲームを行うなど、下級生が上級生に憧れる機会を設け、東四つ木地域の子どもたちが地元の学校に通学するという雰囲気醸成していきたいと考えております。そのためにも来年から準備を進めてまいります。

【質問7】

区内には小中一貫校がありますが、施設一体型校舎とは違うのでしょうか。

【回答】

区内には高砂けやき学園と新小岩学園、2校の小中一貫校があります。施設一体型校舎は、一つの校舎の中に小学校と中学校が入り連携を強化していくという位置付けであり、小中一貫校ではありません。なお、現在整備を進めているよつぎ小・中学校も同様の施設一体型校舎となっています。

【質問8】

校名案の応募は何件きているのか。

【回答】

現時点で50件程度の応募があります。今後、児童・生徒向けにも募集の案内を行う予定です。また、中川中学校の学校だよりを地域や保護者の皆様に配布しますので、ぜひご応募いただければと考えております。

【質問9】

施設一体型校舎は、どの位の高さになるのか。

【回答9】

現時点の案としては、4階建ての校舎に小・中学校それぞれの教室と、小・中学校それぞれの体育館を整備することを想定しておりますが、詳細につきましては今後、設計等を進める中で検討してまいります。

【質問10】

施設一体型校舎は、災害時の拠点にもなるのか。

【回答10】

学校は災害時の避難所になりますので、浸水等を考慮して新校舎の2階以上に体育館を整備することで、安全・安心の確保を図ってまいります。

---

・12/15（金） 渋江小学校 体育館

【質問1】

施設一体型校舎内に、どのように小学校と中学校を配置するのか。

【回答1】

新校舎の中に小学校と中学校が入るかたちとなり、小・中学校それぞれの昇降口から、小学校用の階段、中学校用の階段を上り、それぞれの教室に行くことを想定しています。学習センター（学校図書館）や特別教室は共有スペースとして、小学校エリア・中学校エリアのどちらからも行きやすい配置とすることを考えています。

今年完成した高砂小・中学校の施設一体型校舎は、小・中学校の動線を分けることで学校運営を行っています。校舎内の配置については、今後、設計等の中で検討を進めていきますが、階によって小学校・中学校を分けるのではなく、高砂小・中学校のように、例えば東側は小学校、西側は中学校といった配置とすることを考えています。

【質問2】

体格差のある小学生と中学生が、一緒に校庭を使うことになるのか心配である。どのようにして区分けをしていくのか。

【回答2】

中川中学校の校庭を第二校庭として活用し、例えば中学生の部活動の際には第二校庭を使うことなどにより、学校運営に支障がないようにしていきたいと考えています。

また、校庭については壁や仕切りを設けるのではなく、時間帯によって小学生・中学生の時間等で分けることや、校庭の活動範囲を分けて運用することを検討しています。

【質問3】

朝や休み時間の校庭利用はどうなるのか。

【回答3】

登下校の時間帯については、動線を分けることで交錯しないように工夫してまいります。休み時間の校庭利用について、曜日ごとに小学生・中学生の利用時間を分けるなどの運用を検討していきます。

なお、高砂小・中学校では小学生が先に校庭を使い、その後に中学生が使っています。小学校と中学校では授業の終わる時間が違い、時間差が生まれるため、休み時間の校庭利用に影響はないと考えています。

【質問4】

小・中学生がお互いに影響し合うことは良いことだと思うが、悪さをする子がいないか心配である。

【回答4】

同じ場所に年齢の違う子どもたちが一緒にいることが重要であり、下の子が上の子の面倒を見る、また、上の子を見て下の子が上を目指すような教育を目指したいと考えています。

【質問5】

説明資料に高砂小・中学校の肯定的な声が掲載されているが、課題も吸い上げ解消する必要があるのではないか。また、小中一貫校である新小岩学園の検証は行わないのか。

【回答5】

小学校と中学校の授業の時間が違うことや体育館の位置などの要因から、音についての課題が挙がっていましたが、教室配置を工夫することで解消できると考えております。その他に、小学生の声として、学習センター（学校図書館）で中学校の図書を読むことができ勉強になったという声も伺っています。

高砂小・中学校は令和5年4月に完成して間もないため、学校運営上の課題については今後、東四つ木地域の学校づくりにおいて解消できるように進めてまいります。なお、新小岩学園については、職員室は一体ですが小学校と中学校で校舎が別棟となっているため、東四つ木地域における整備の形とは異なりますが、引き続き情報収集を行いながら設計等を進めていきたいと考えています。

【質問6】

施設一体型校舎の小学校・中学校では授業時間が違うため、チャイムはどのようなのか。その他にも細かい課題が出てくるのではないか。

【回答6】

高砂小・中学校はノーチャイムで運用しています。チャイムや放送を行う場合でも、例えば小学校の教室だけに放送するよう放送設備を設定できるため、学校運営に支障は生じないと考えています。また、現在、四つ木地域でもよつぎ小・四ツ木中学校の施設一体型校舎の設計を進めており、今後も先行事例の研究を行い、東四つ木地域の学校づくりに反映させてまいります。

【質問7】

今後、施設一体型校舎の設計を見ることはできるのか。

【回答7】

設計を進める中で、東四つ木地域学校づくり検討懇談会を通じて情報提供をさせていただくとともに、今後も説明会を開催してまいります。

【質問8】

学校統合があった際、児童情報の引継ぎが行われるのか不安である。

【回答8】

学校統合により児童への対応が変わるということがないよう、子どもたちのフォローができる体制づくりを進めていきたいと考えております。また、東四つ木地域の3校では、子どもたちの学び方や育て方を共有するための話し合いを続けています。今後、開催頻度を増やし、更に質を高めていきたいと思っております。

【質問9】

施設一体型校舎とすると9年間、人間関係が変わらないのではないか。

【回答9】

本区には指定校変更制度がありますが、子どもたちが地域の小学校・中学校に進学し、地域の皆様に見守られて成長することができる環境が必要と考えています。このような環境を大切にしながら、取組を進めてまいります。